



通所リハビリテーションでの疥癬への感染対策

市内の介護施設では、数年に1回程度の割合で疥癬の発生が確認されています。当院の通所リハビリテーションにおいても、7月から8月にかけて利用者さんの感染が確認され、他の利用者さんへの感染拡大を認めたため、感染対策を進めてきました。そこで疥癬対策についてお話しします。

疥癬とは『ヒゼンダニが皮膚の最外層に寄生し、人から人へ感染する疾患』です。非常に多数のダニの寄生が認められる角化型疥癬（痂皮型疥癬）と少数寄生であるが激しい痒みを伴う普通の疥癬（通常疥癬）とがあります。

	通常疥癬	角化型疥癬
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100万～200万
患者の免疫力	正常	低下
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いツブツブ（丘疹、結節）、疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態（角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔・頭以外の全身	全身

ヒゼンダニは乾燥に弱く、皮膚から離れると2～3時間ほどで死にます。**感染経路**としては、**人と人との接触**がほとんどであり、家族、介護者などが多いです。また畳などでの雑魚寝や寝具・衣類などからも感染することあります。

通所リハビリテーションでは、施設を利用時間も長く、また介護するために接触する回数も多くなる傾向があります。そこで疥癬の対策として以下の方法を実施しました。

- ① 介護する職員が防護服を着用する
- ② 利用者が使用する休息時の共有枕をビニール袋で覆い個別化する
- ③ リハビリテーション・介護職員間での勉強会の実施
- ④ 診療後（1人毎）にプラットホームの清掃
- ⑤ 入浴時の浴槽を分ける

施設内で疥癬が流行すると、終息するまでに時間を要し、利用者・職員の負担が非常に増えてしまいます。今回の件を通し、疑わしい場合には早期に診断・治療して頂き、1人1人が予防策を徹底していく事が、新たな流行を起こさないためにも重要だと改めて感じました。今後も感染対策に気を付けながら、利用者へのサービスを提供していきたいと思えます。

【記：リハビリテーション部 山川 雄亮】

学会参加報告：第39回日本環境感染学会学術集会 楽しく学ぼう感染対策

開催日：R6年7月25日～27日 京都国際会館にて

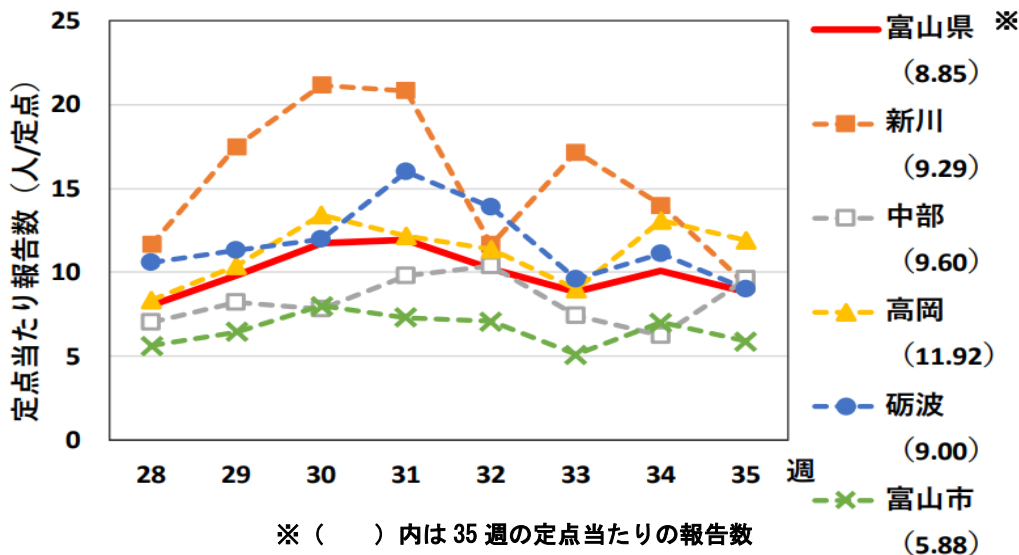
9月になってもまだまだ新型コロナウイルス感染症が続いており、毎日の感染対策に尽力しておられると思います。私は、7月26・27日の2日間に京都の国立京都国際会館で開催された第39回日本環境感染学会総会・学術集会に参加してきました。コロナの近況や防護具の実施状況、AST活動や災害時の感染対策の振り返りや今後への提案など、看護師だけではなく医師や薬剤師・検査技師の立場からの様々な発表を聞くことが出来ました。企業ブースでも、感染対策防止に役立つ身近でなじみのある手指消毒剤から高額なベッドパンウォッシャーから紫外線消毒剤などいろいろあり、対策が容易にできるものが無いかと商品説明を聞いてきました。常日頃から病院スタッフや患者さんの感染防止が促進できればいいなと考えています。今回の学会で見たり聞いたりして学んだことを活かして、皆さんと一緒に感染防止対策に取り組んでいきたいと思えます。

【記：看護部 南 康一】

《 富山県内 COVID-19 流行状況 》

◆ 7月後半から患者が増加していましたが8月後半から減少傾向です

図2. 厚生センター（保健所）管内別発生動向の推移



週数	月日
28	7/8～7/14
29	7/15～7/21
30	7/22～7/28
31	7/29～8/4
32	8/5～8/11
33	8/12～8/18
34	8/19～8/25
35	8/26～9/1

出典：富山県感染症情報センターHP <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>